

インスペック株式会社

決算説明会資料

2023年6月13日

インスペック株式会社



JQA-QMA16212



MS
CM009



(証券コード : 6656)



第1部 2023年4月期決算概況及び2024年4月期業績予想

第2部 今後の戦略

「インスペック Vision 2030」策定に向けて

A 3D bar chart with ten white bars of increasing height from left to right. A thick, bright green arrow is superimposed on the chart, starting at the base of the first bar and pointing upwards and to the right, following the general trend of the bars. The arrow has a slight curve, showing an upward trend with a minor dip in the middle.

2023年4月期決算概況及び2024年4月期業績予想

上半期は受注が苦戦。年度後半から大型受注をはじめとして回復傾向。

■上半期：

- 海外：中国市場販売向けに、香港のWorld Wide社と代理店契約締結（2022年8月）

■下半期：

- 国内：ロールtoロール型シームレスレーザー両面同時直描露光装置「RD3000FB」の開発完了、受注開始（2022年11月）
 - ：ロールtoロール型検査装置「RA7000シリーズ」が、ものづくり日本大賞経済産業大臣賞受賞（2023年1月）
 - ：高性能半導体パッケージ基板用両面全自動検査装置をはじめとした大型受注獲得（2023年4月）

■ 損益計算書サマリー

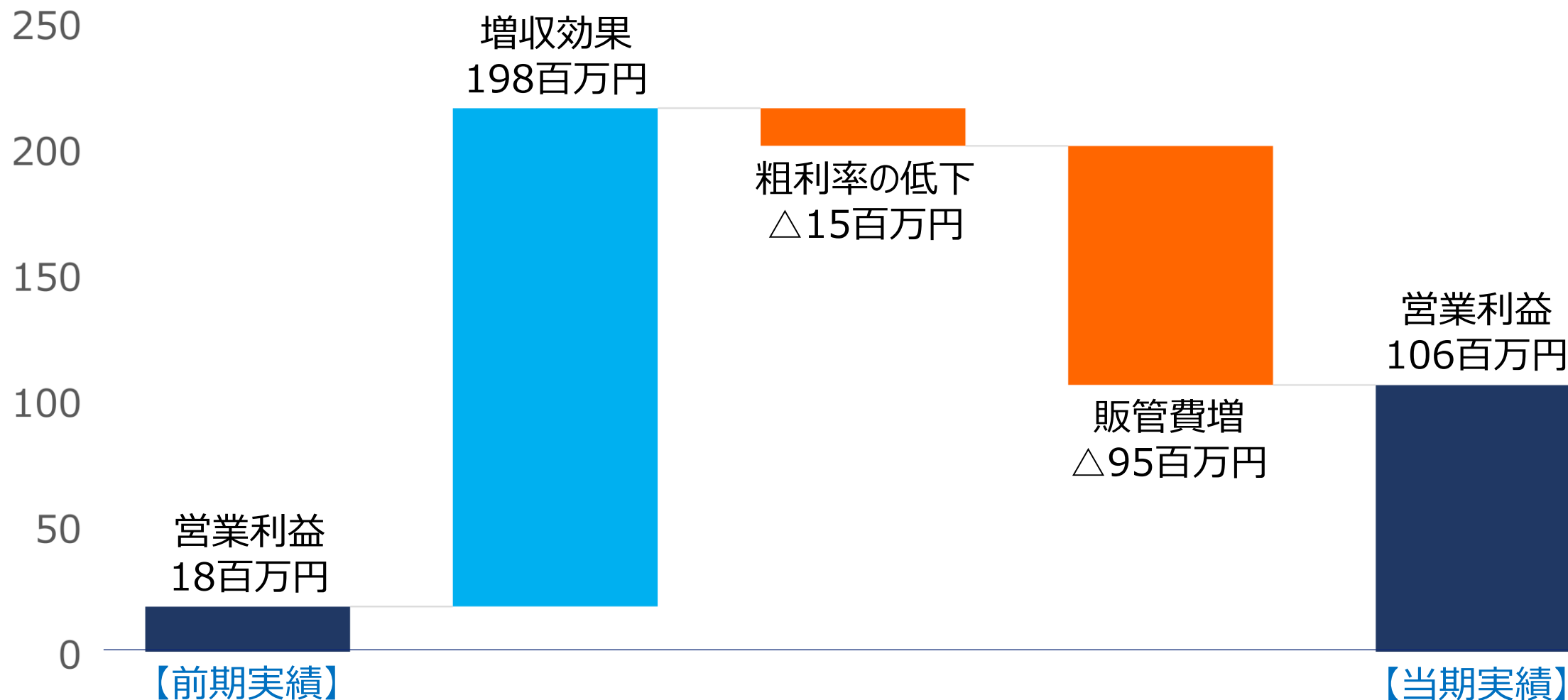
(単位：百万円)

	2023年4月期	2022年4月期	前期比	公表値	増減
売上高	※ 2,290	1,762	528	2,250	40
営業利益	106	18	88	100	6
経常利益	81	132	△51	90	△9
当期純利益	78	155	△77	70	8

※過去最高売上を達成

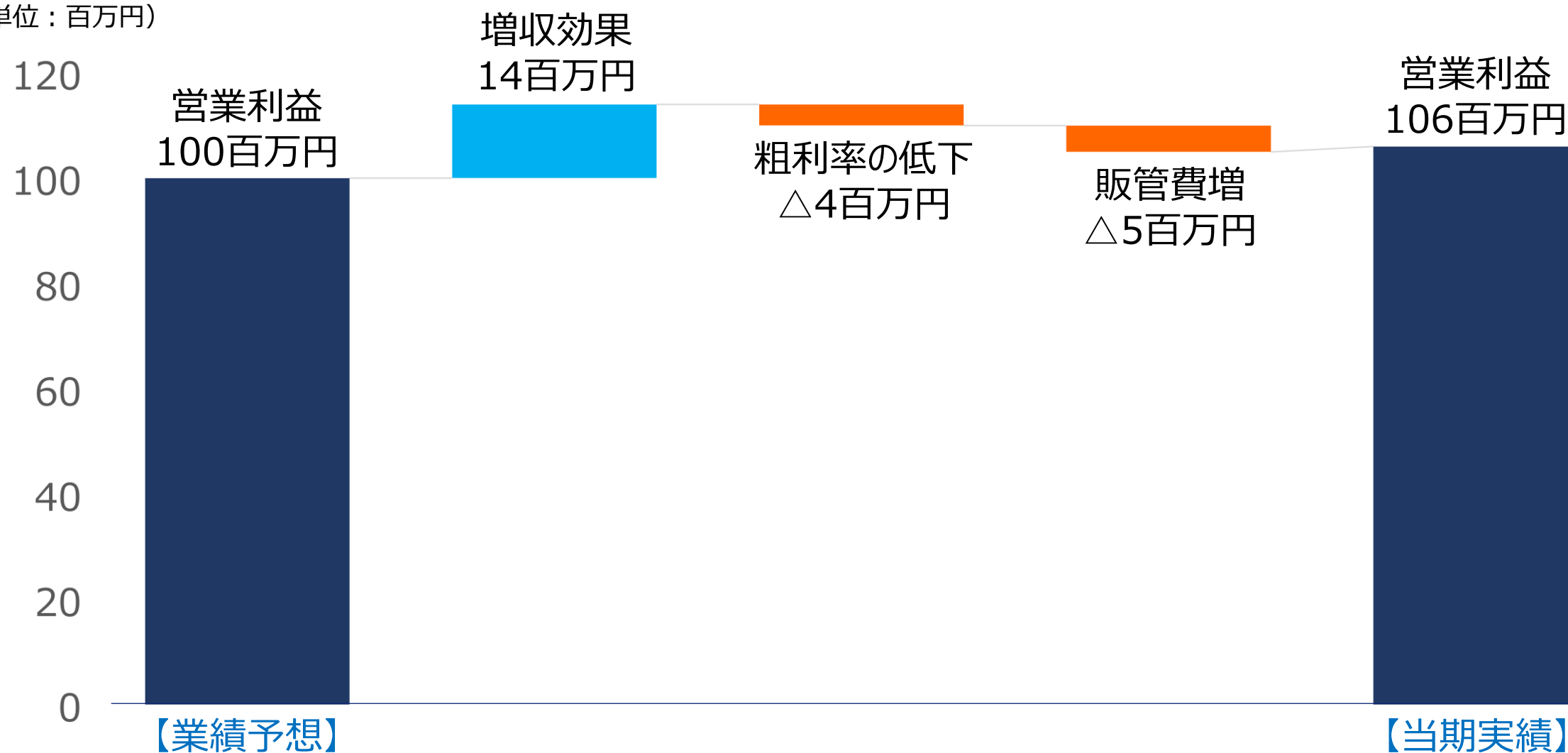
営業利益の増減要因（前期比）

（単位：百万円）



営業利益の増減要因（予想比）

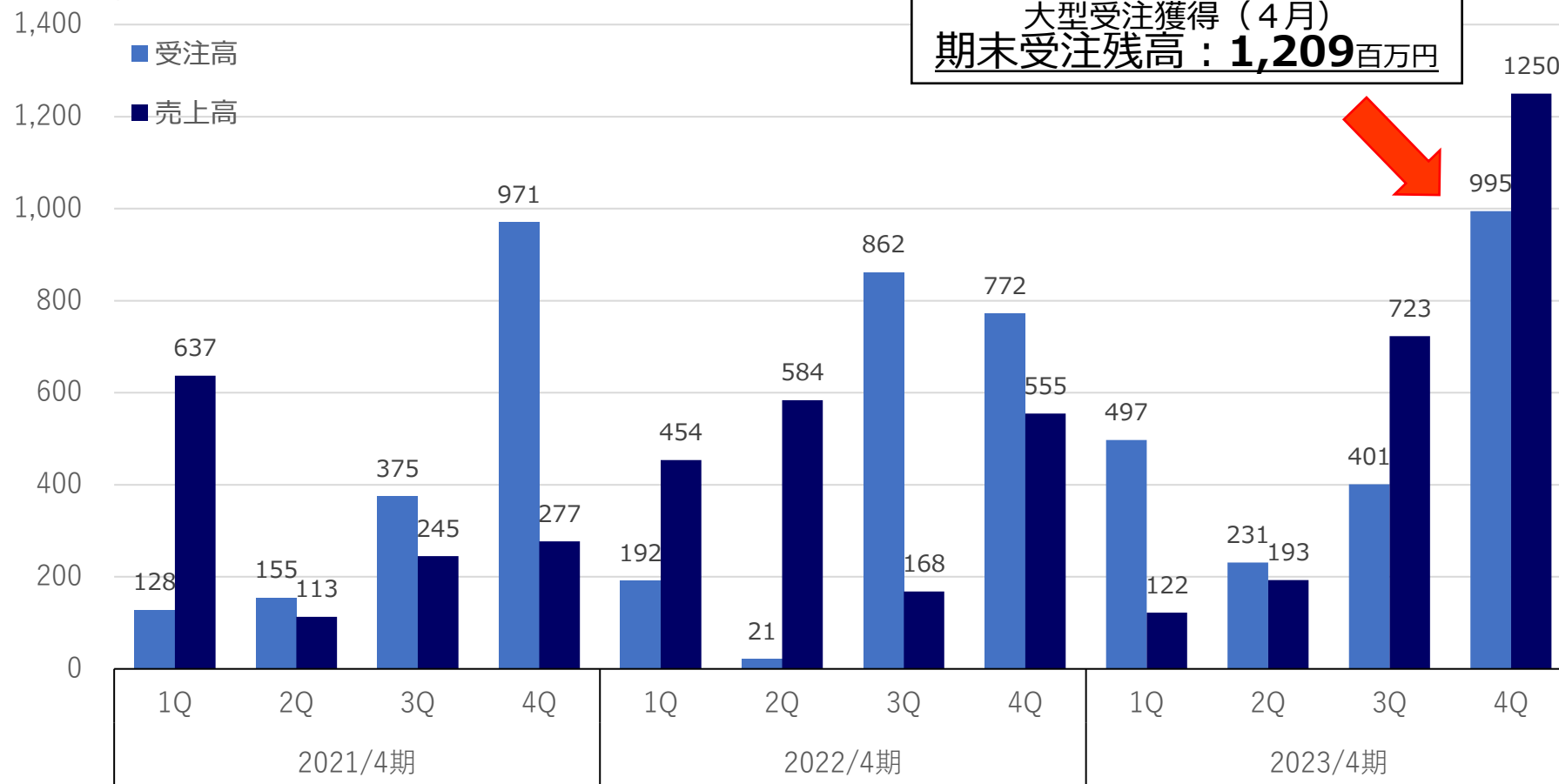
（単位：百万円）



受注高及び売上高推移

四半期毎の推移

(単位：百万円)

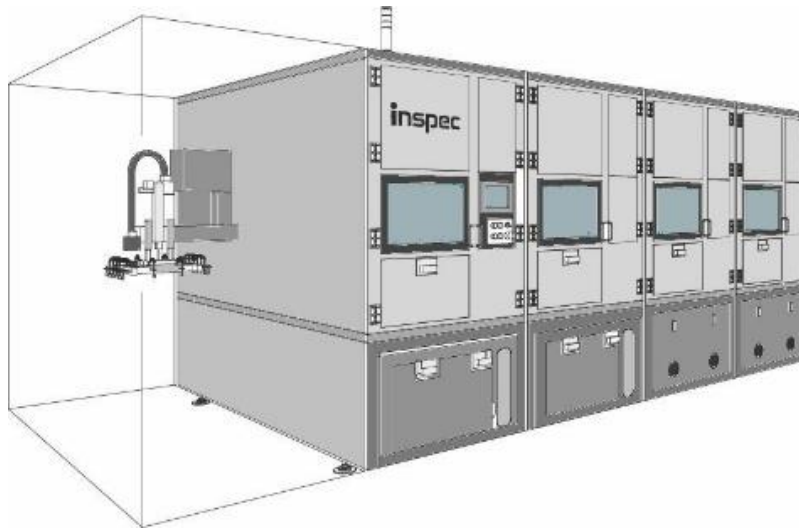


大型受注獲得（2023年4月）

2023年4月：高性能半導体パッケージ基板用AI機能付両面全自動検査装置、
ルールtoルール型検査装置合計 約9億円

【背景】

5Gをはじめとする情報通信技術の発展、クラウドサーバーの需要が増加するなど、高性能なCPU及びGPU向け半導体パッケージ基板市場が活況を呈する中、**当社検査装置の性能及び当社のサポート力**がユーザー様から高く評価されました。



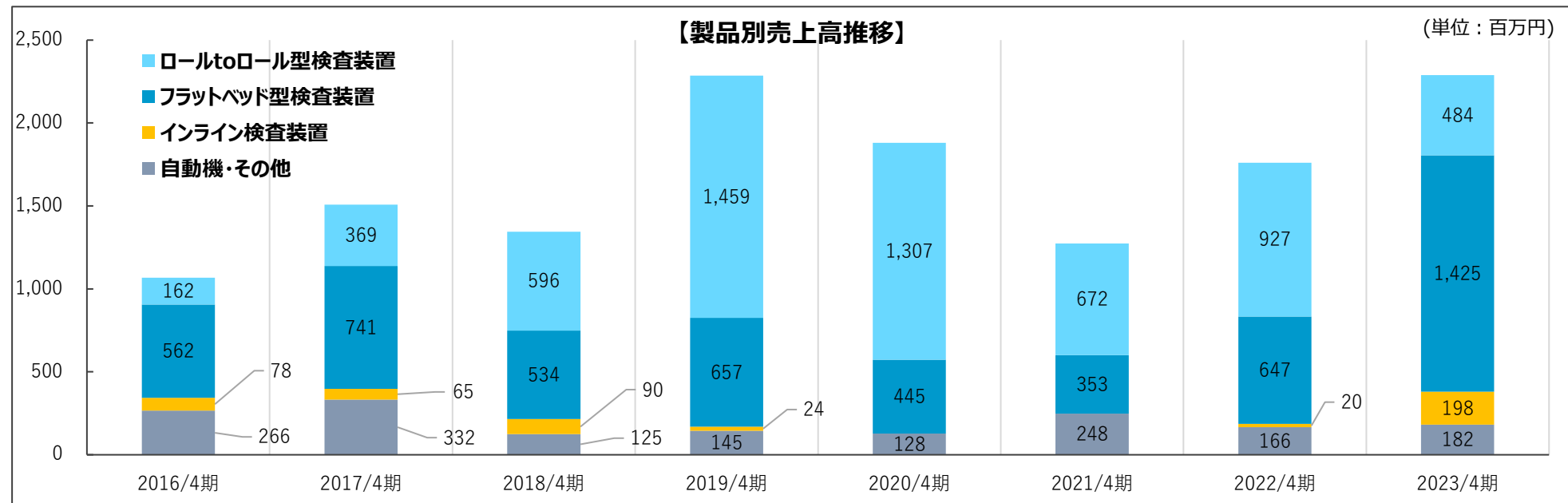
AI機能付両面全自動検査装置



ルール to ルール型検査装置

製品別売上高

	2023年4月期		2022年4月期		前期比 増減率
	金額（百万円）	構成比	金額（百万円）	構成比	
■ 売上高合計	2,290	100.0%	1,762	100.0%	30.0%
■ ロールtoロール型検査装置	484	21.1%	927	52.8%	△47.8%
■ フラットベッド型検査装置	1,425	62.2%	647	36.7%	120.1%
■ インライン検査装置	198	8.7%	20	1.1%	892.2%
■ 自動機・その他	182	8.0%	166	9.4%	9.4%



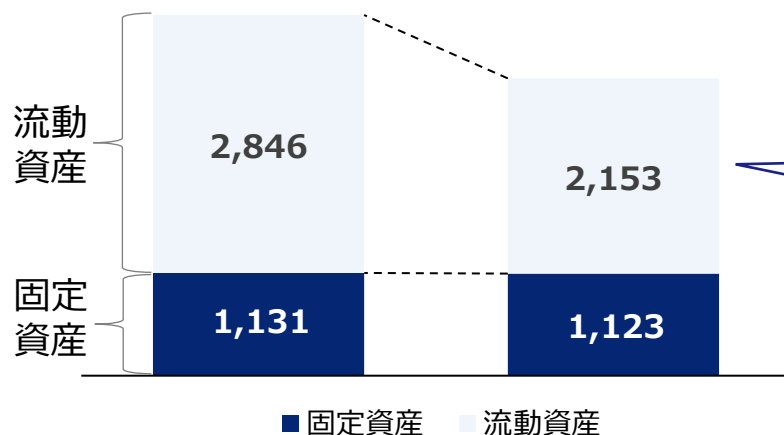
要約貸借対照表

(単位：百万円)

2023年4月期
3,977

2022年4月期
3,277

資産の部

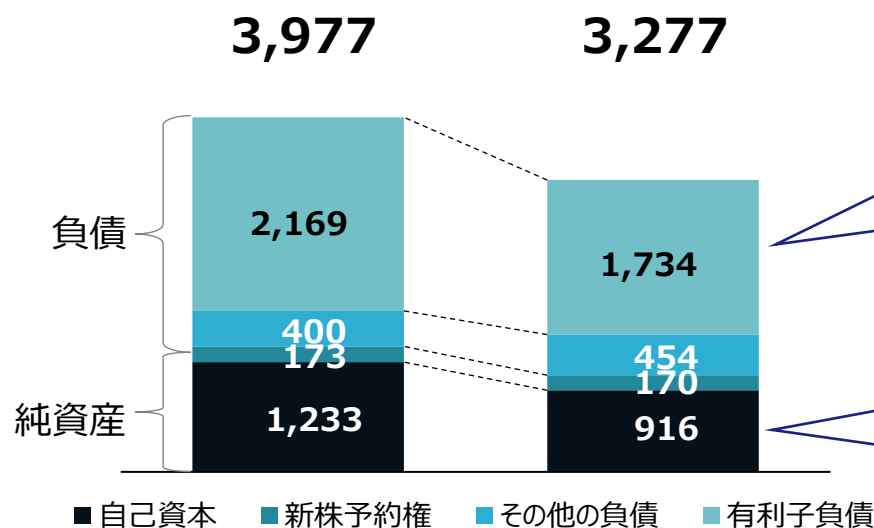


	2023年4月期	2022年4月期
自己資本	1,233百万円	916百万円
自己資本比率	31.0%	28.0%

【主な増減要因】

売上債権：775百万円増加

負債の部、純資産の部



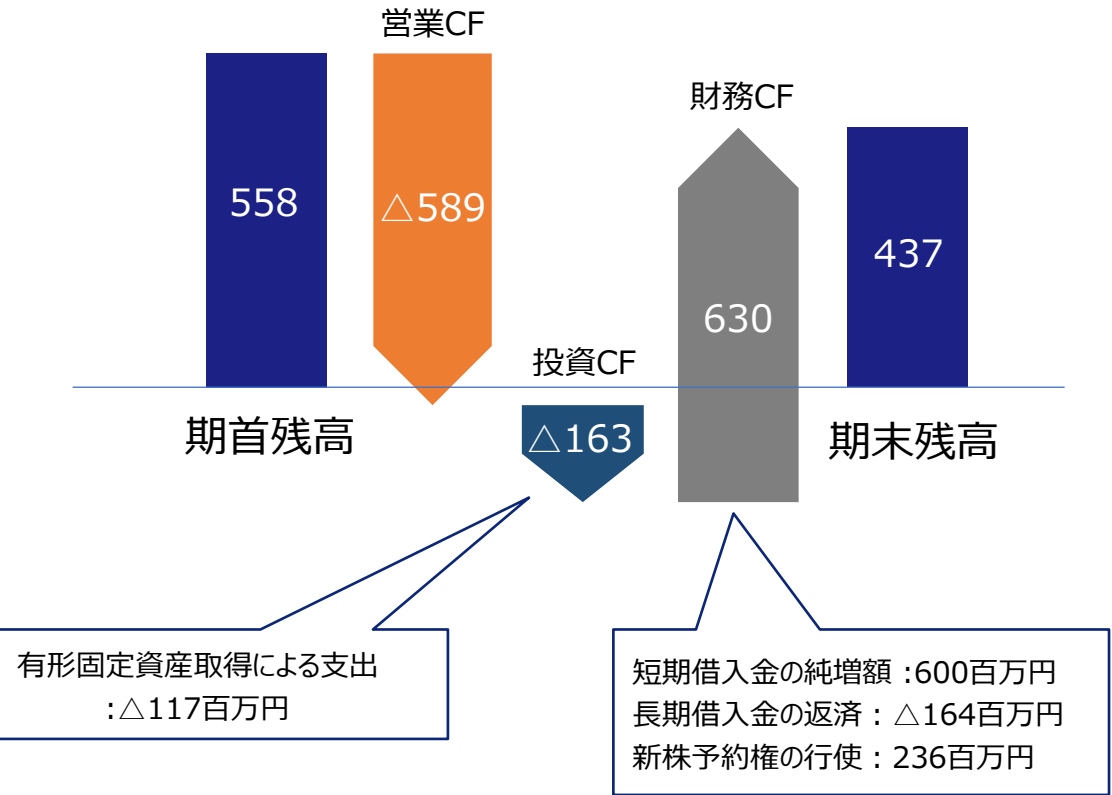
短期借入金（シンジケートローン）
：600百万円増加
長期借入金：154百万円減少

資本金：124百万円増加
資本準備金：124百万円増加
当期純利益の計上：78百万円

(単位：百万円)

現金及び現金同等物 121百万円の減少

(単位：百万円)



	2022年4月期	2023年4月期
期首現金及び現金同等物残高	673	558
営業活動によるキャッシュ・フロー	$\Delta 175$	Δ 589
投資活動によるキャッシュ・フロー	$\Delta 329$	Δ 163
フリーキャッシュ・フロー	$\Delta 504$	Δ 752
財務活動によるキャッシュ・フロー	390	630
現金及び現金同等に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増減額（減少 Δ ）	$\Delta 114$	Δ 121
期末現金及び現金同等物残高	558	437

	2023年4月期		2022年4月期		対前年 増減率
	金額（百万円）	対売上比	金額（百万円）	対売上比	
基板検査装置事業	190	8.2%	157	8.9%	20.7%
直描露光装置事業	95	N/A	69	N/A	36.1%
合 計	285	12.4%	227	12.8%	25.5%

◆基板検査装置事業（半導体パッケージ基板検査装置・フレキシブル基板検査装置）

- ・次世代検査装置向けの高度化技術開発
- ・AIを活用した欠陥分類システムの開発

◆直描露光装置事業（ロールtoロール型シームレスレーザー直描露光装置）

- ・ロール to ロール型シームレスレーザーの次世代露光装置の開発

2023年の半導体市場はマイナス成長が見込まれ、厳しい市場環境を予想

- ・ロシア・ウクライナ紛争の長期化、世界的なインフレ進行、欧米各国の金融引き締め等による景気後退懸念
- ・物価上昇、エネルギー価格及び原材料価格の高騰懸念
- ・パソコンやスマートフォン等の需要減退や在庫調整の長期化、半導体輸出規制の影響懸念

■基板検査装置事業：

- エレクトロニクスマーケット：

5Gの普及やDXの進展に伴い、高機能化・高性能化の需要に対応すべく次世代検査装置向けの高度化技術開発及び新製品の投入

- モビリティマーケット：

電気自動車（EV）向け車載用FPC向け検査ニーズの深耕、販促強化

■直描露光装置事業：

- エレクトロニクスマーケット：

次世代露光装置の開発、NEDO補助金事業採択の要素技術開発の製品化

- モビリティマーケット：

販促強化、量産対応開発

(単位：百万円)

	予想	前期実績	増減	増減率
売上高	2,300	2,290	10	0.4%
営業利益	70	106	△36	△34.3%
利益率	3.0%	4.6%		
経常利益	40	81	△41	△50.9%
利益率	1.7%	3.5%		
当期純利益	30	78	△48	△62.0%
利益率	1.3%	3.4%		

2024年4月期 セグメント別業績予想



(単位：百万円)

	予想	前期実績	増減	増減率
売上高	2,300	2,290	10	0.4%
基板検査装置事業	2,180	2,290	△110	△4.8%
直描露光装置事業	120	—	120	—
その他	—	—	—	—
営業利益	70	106	△36	△34.0%
基板検査装置事業	540	442	98	22.2%
直描露光装置事業	△185	△95	△90	—
その他	△285	△241	△44	—
営業利益率	3.0%	4.6%	—	—
基板検査装置事業	24.8%	19.3%	—	—
直描露光装置事業	—	—	—	—
その他	—	—	—	—
EBITDA	278	222	56	25.2%
基板検査装置事業	593	498	95	19.1%
直描露光装置事業	△38	△44	6	—
その他	△277	△232	△45	—

- 注) 1. 基板検査装置事業は、半導体パッケージ基板検査装置・フレキシブル基板検査装置を示します。
 2. 「その他」には各セグメントに配分していない全社費用等が含まれます。
 3. EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

インスペックの事業戦略

1. エレクトロニクスマーケット



事業分野

- 半導体分野
- モバイルデバイス分野



対応製品

高性能検査装置



主要マーケット

- 日本国内
- アジア地域

キーワード

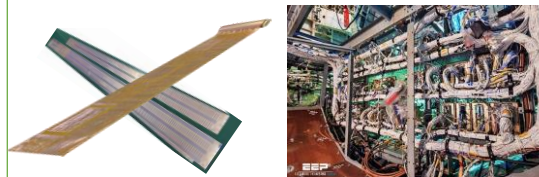
- 5G → 6G
- AI
- VR・AR・MR
- CLOUD

2. モビリティマーケット



事業分野

- 車載エレクトロニクス
- 航空機の電子機材



主要マーケット

- 欧州
- 北米
- 日本国内、アジア地域

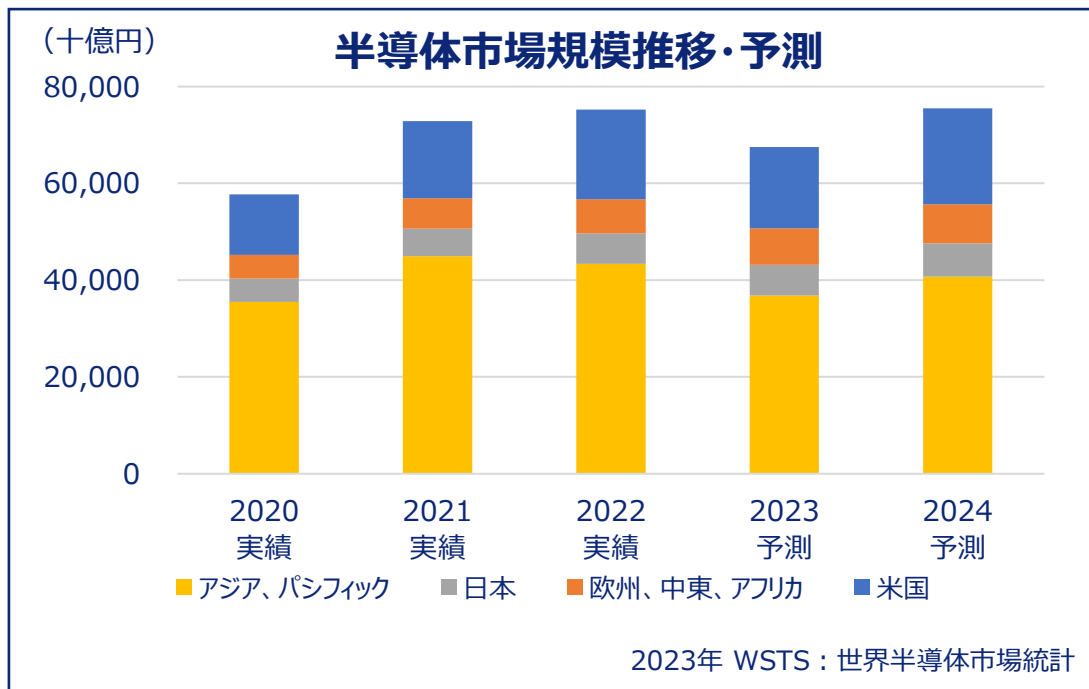
対応製品

RtoR型検査、露光装置



キーワード

- CASE
- カーボンニュートラル
- 車両軽量化



■ 全体市場

回路集積密度の向上による半導体の高性能化が進められてきたが、同技術の進化スピードが鈍化。（2023年 富士キメラ総研）

中長期的に市場は成長し続けると見られているが、2023年度においては、国内大手半導体パッケージ基板メーカー各社は横ばい、あるいは減収の予測により設備投資を先送りする動きが見られる。（2023年 電子デバイス産業新聞より抜粋）

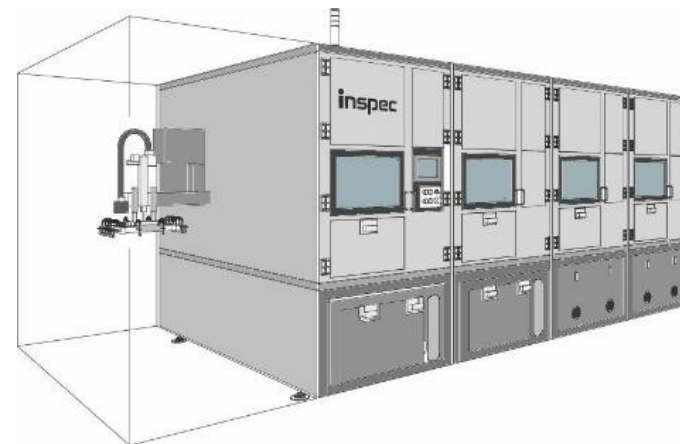


半導体パッケージ基板向けAOI『SX5600』

- インスペク基板AOIのフラッグシップモデル
- 最先端の超高精細基板に対応
- クラス最速レベルの生産性を実現

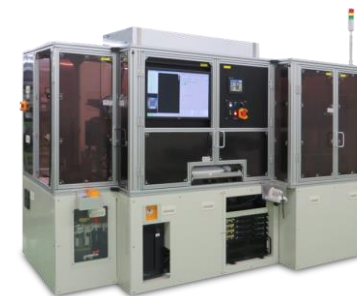
全自動化ライン

SX5600を複数台組み込んだ全自動化ライン



半導体パッケージ基板向けAVI『BP7200』

- JEDECトレイをまるごと検査
- クラス最高レベルの超高速検査を実現
- CPU向けパッケージ基板で多くの実績
- 全自動検査＋全自動良品/不良品振り分け



急成長するEVマーケット



ものづくり日本大賞
経済産業大臣賞

第9回 ものづくり日本大賞・経済産業大臣賞

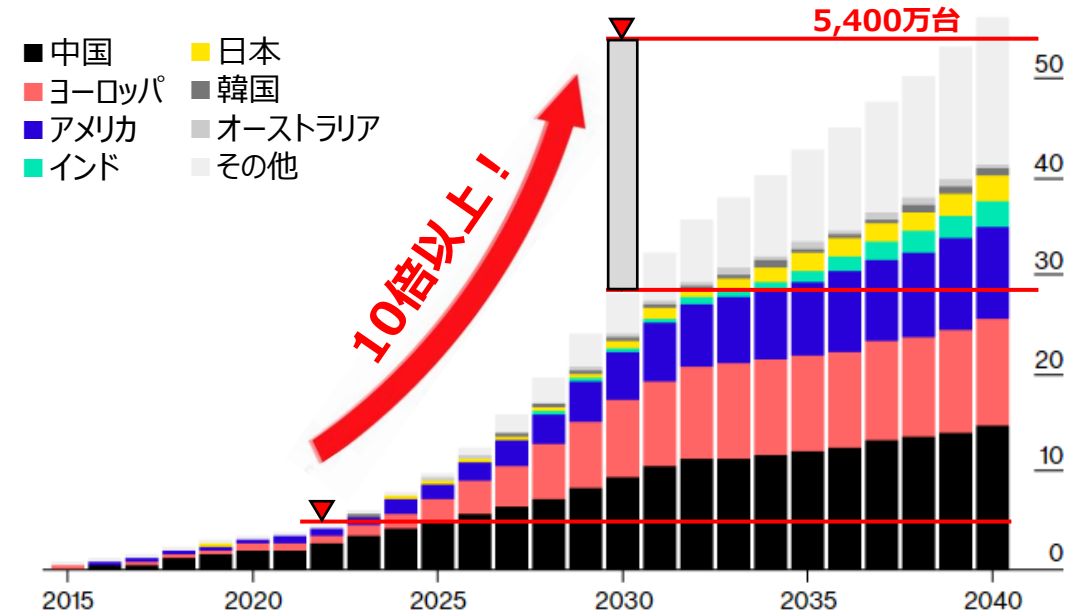
ナンバーワンの主力製品
ライバルを圧倒する高速・高精度検査
ロールtoロールFPC検査装置
『RA7000シリーズ』



オンリーワンの新製品
車載長尺FPCのシームレス両面同時露光
ロールtoロール型シームレスレーザー
両面同時直描露光装置
『RD3000FBシリーズ』

世界初!!

ロイターによる予測（2022年10月） Million EVs 60



EV市場予測（2019年 Bloomberg）



2023年5月31日(水)～6月2日(金)に東京ビッグサイトで開催された
「JPCA SHOW 2023 第52回国際電子回路産業展」に出展いたしました。

新型コロナウイルス関連の規制も緩和され、国内のみならず海外からの来場客も多く、
 検査装置や露光装置の商談に繋がるお問合せもたくさん頂き、大盛況で終えることが出来ました。



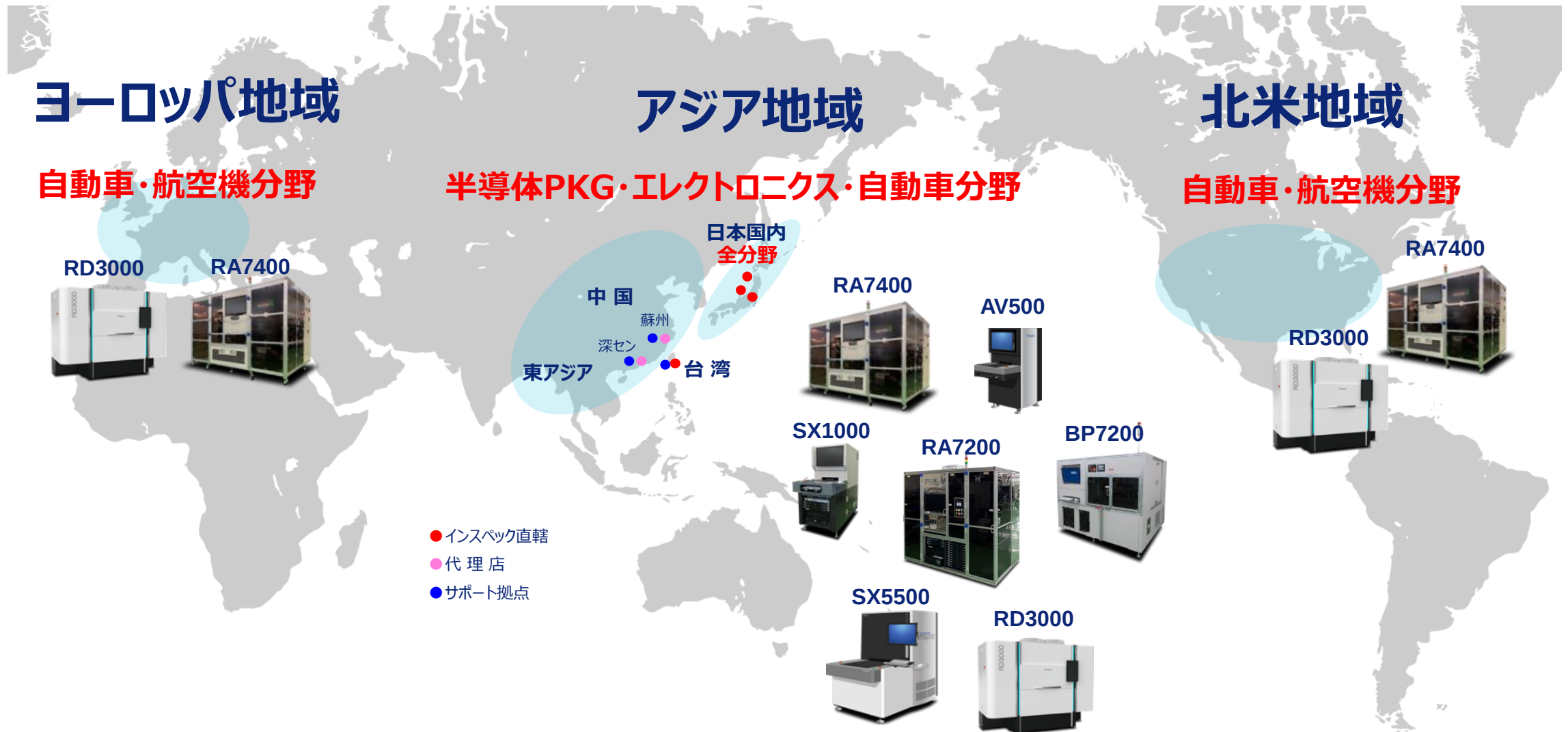
■ 当社ブース



■ 主力製品「RAシリーズ」展示パネル



■ 新製品「RDシリーズ」展示パネル



An aerial photograph of a modern, white, two-story building with a flat roof. The building has large glass windows and a prominent entrance on the right side. The word "inspec" is visible on the building's facade. In the background, there is a small town with various houses and a large, forested mountain under a clear blue sky. A large, semi-transparent white rectangular box is overlaid on the center of the image, containing Japanese text.

inspec

今後の戦略

「インスペック Vision 2030」策定に向けて

～ 2022年4月期

2023年4月期 ～ 2025年4月期

2026年4月期～

「インスペック2.0」

既存事業と新事業による成長の
持続と安定した財務体質を実現し、
次のステージへ

- 検査装置、露光装置の新製品開発・販売
- パーパスを策定し全社員一丸となって前進
- アジアへの進出拡大
- 地域貢献と雇用の創出

「創成期」

検査装置事業の核を作り上げ
経営基盤の基礎を築いた時期

「飛躍」

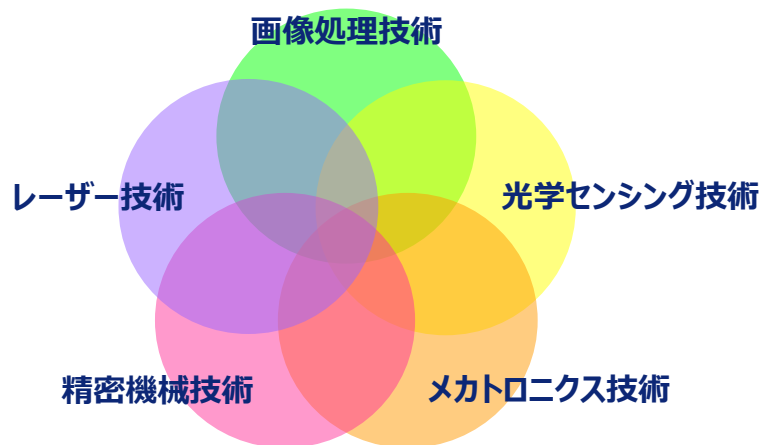
東証プライム市場上場を目指し
更なる高みへ

確かな技術とあくなき挑戦で、創造社会を切り拓く

社員が幸せになれる会社、そしてその先の誰もが輝き心豊かに生きることが出来る社会を目指して

インスペック2.0の新たな出発

【確かな技術】



当社は、検査装置メーカーとして必要とされる**画像処理技術**はもとより、**光学センシング技術**、**制御技術**、**精密機械技術**において、世界トップレベルの技術を磨き上げてきました。また、近年は露光装置を開発する課程で**レーザー技術**を新たに獲得しました。

これらの高度な技術を最大限に活かし、インスペックのミッションを推進していきます。

【あくなき挑戦】



新しい物を生み出すことへの挑戦、ひたすらロボットを開発しロボットメーカーを目指した挑戦、液晶TFTアレイ検査装置事業を柱とするべく最高性能の装置を開発した、業界のガリバーへの挑戦、いずれもビジネスとして花を咲かせることが出来ずに大きな損失を経験してきました。しかしその経験から多くのことを学ぶとともにかけがいのない技術や数々の得難いノウハウを積み重ね、今日のインスペックがあります。

いつのときも、果敢な挑戦が新しい道を開いてきました。

「**挑戦こそが未来への唯一の扉**」です。

【創造社会】



創造社会とは、「誰もが輝き心豊かに生きることが出来る社会」とあります。
創造社会の実現に貢献するためには、何よりも第一にインスペックの社員が幸せにならなければなりません。
「社員が幸せになれる会社」への取り組みこそが創造社会の実現への取り組みであり、まさにそのことがインスペックの存在意義です。

【切り拓く】

インスペックは自社が持つ技術・ノウハウを駆使して
まだ見ぬ明日へチャレンジし続けます。

**「確かな技術とあくなき挑戦で、創造社会を切り拓く」
パーパス経営を実践し、新たな成長戦略を描く**

2024年第2四半期決算発表時(12月上旬)に発表予定

**中期経営計画及び
「インスペック Vision2030」を策定**

私たちの取り組み

活力ある職場づくり

交流・能力開発・仕事と生活の調和によって働きがいのある職場づくり



- 支援学校実習受け入れ
- インターンシップ受け入れ



- 女性社員の雇用・活躍の推進
- 出産・育児・介護休暇の取得推進



- 有給休暇取得推進
- 外部研修の実施

社会貢献活動

地域社会をはじめとした社会貢献活動を推進



- 開発途上国にワクチン提供支援（ペットボトルキャップ回収）
- 社内献血活動



- 角館武家屋敷清掃活動
- 地元災害ボランティアへの登録



- フードロス対策自販機の社内設置
- 社内空調にガスエアコンを使用
- 照明のLEDライト化



- あきたSDGsパートナー登録
- 地元スポーツ団体への協賛

技術開発

検査装置・露光装置の開発を通じて技術革新に貢献



- 検査装置・露光装置による生産性向上への貢献
- 欠陥自動分類技術による人手不足解消への貢献
- 電気自動車等のクリーンエネルギー技術発展への貢献

本資料のお取り扱い上のご注意

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料を作成するに当たっては、正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及又は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることをご承知おきください。